

信州の羊歯植物研究 II

大 塚 孝 一

K. Otsuka: Studies on the ferns of Shinshu, Central Japan II

§ 2 長野県のミヤマシケンダ属

ミヤマシケンダ属 (*Lunathyrium Koidzumi*) は、ミヤマシケンダ (ハクモウイノデと同義) に基づいて立てられた単型属であったが、中軸の表面の溝は分岐で中断されないこと、有節毛を有する等の共通の性質を持った、シケンダ類 (狭義)、オオヒメワラビ類を含めることが妥当とされている。この類は、最近多くの雑種が知られてきた。また、種自体の変異も相当広く識別の困難な群であり、不完全な標本では、はなはだ難しくなる。長野県では、次に示す 8 種のシケンダ類 (広義) が知られる。雑種と推定されるものもあるが、それらは今後さらに調査して報告したい。各大学標本庫の閲覧をお許し下さった諸先生に、厚くお礼申し上げます。

以下に、長野県産ミヤマシケンダ属の簡単な検索表を示す。

- | | | |
|---|--|-------------|
| A | 包膜は長形。..... | B |
| A | 包膜は長いものを欠き、円腎形や馬てい形。..... | 6. オオヒメワラビ |
| B | 根茎はない、葉身の下部は狭くならない。..... | C |
| B | 根茎は立ち、葉身の下部は著しく狭くなる。..... | I |
| C | 非常に大形で、1 m ~ 2 m に達する。葉柄は太い。..... | 7. オオメシケンダ |
| C | 小形 ~ 中形で、大きくても 50 cm ~ 70 cm。葉柄は細い。..... | D |
| D | 包膜の背に毛がある。..... | E |
| D | 包膜の背に毛はない。または、あってもごく少ない。..... | F |
| E | 葉柄、中軸に長い毛がほとんどない。..... | 5. セイタカシケンダ |
| E | 葉柄、中軸に長い毛が密生する。..... | 5-b ムクゲシケンダ |
| F | 実葉と裸葉の差が著しく、葉身細く、羽片は鈍頭。..... | G |
| F | 実葉と裸葉の差はほとんどなく、羽片は鋭頭。..... | H |
| G | 最下羽片は常にもっとも大きく、鋭頭。包膜はほとんど全縁。..... | 4. フモトシケンダ |
| G | 最下羽片は時に大きくなるが、鈍頭。包膜の辺縁は細裂。..... | 3. ホソバシケンダ |
| H | 羽片は軸に狭い角度でつき、葉身は広 ~ 狭皮針形。下部羽片は最長。..... | 1. シケンダ |
| H | 羽片は直角につき、葉身は狭皮針形、下部羽片は特に最長でない。..... | 2. ヤリノホシケンダ |
| I | 葉柄、中軸に白毛が密生する。..... | 8. ハクモウイノデ |
| I | 葉柄、中軸に白毛を欠く。..... | 8-b ミヤマシケンダ |

長野県産の種類

1. シケンダ 夏緑性。暖帯 ~ 温帯下部性。葉長 30 ~ 80 cm ぐらい。葉形は非常に多形で、細長い

ものから、幅広いものまで変化し、また、典型的なものでは、羽片が中軸に狭い角度でつくが、直角につくものもある。小形のものでは、ホソバシケンダに似てくる。葉の二形性はほとんどなく、羽片の先は鋭頭。包膜は若時折れ込み、見かけ上全縁であるが、胞子のうが熟してくると、細裂した状態が観察される。葉脈上をのぞき、葉面にはほとんど毛がない。本州、四国、九州に広く分布し、本県にも、低地には普通に見られる。以下に採し得た標本を示す。

北信：小谷村中土700m(大塚2922, KAN), 野尻湖畔神山(古瀬義 s.n. 1964, TOFO), 戸隠中社(大塚462), 中野市(林保子, KAN-52282)。東信：上田市黄金沢ca. 600m(78. 79, SBL[※]), 同塩田前山塩野神社ca. 600m(大塚1349, SBL), 真田町角間沢(大塚100, 150), 東部町田沢950m(大塚3663)。中信：辰野町小野(大塚秀章662953, TI[※])。南信：木曾郡南木曾町田立350m(大塚4384, KAN), 山口村妻籠～馬籠峠(大塚1493, KAN), 同黍生350m(大塚2957, KAN), 飯田市天竜峡400m(大塚2323, KAN), 下伊那郡阿南町和知野400m(大塚4705), 同富草615m(中山洸399, SHIN), 泰阜村温田(大塚2050, KAN), 天竜村平岡300m(大塚4705), 赤穂村(鈴木兵馬 s.n. 1927, KYO), 南信濃村和田梶谷500m(大塚4674)。

2. ヤリノホシケンダ 夏緑性。温帯～暖帯性。本種は、Nakai (1949) によりシケンダの変種として、朝鮮の標本に基づいて記載された。その後、大場(1965)は、葉の二形性がほとんどないことを重視し、独立種とした。最近、芹沢(1973)はホソバシケンダの変種にしている。たしかに、葉の二形性があまりなく、葉形は細長いものからやや広く、羽片の先端は鋭頭～鋭尖頭であり、シケンダとホソバシケンダの中間的な形態をしたものがある。しかし、シケンダもまたホソバシケンダも、その変異の幅は非常に広い。どの様な範囲のものを、ヤリノホシケンダとみなすか自信がない。しかし、やはり独立種とは考えがたく、むしろシケンダに近いものと思うが、ここでは、従来どおりに扱っておく。

北信：大町市居谷里(大塚10593, TI), 同地800m(大塚4362, KAN), 戸隠奥社1300m(瀬戸剛 6533, KYO)。東信：真田町菅平実験所付近1280m(芹沢俊介8805, SBL), 軽井沢町(佐藤邦男 s.n. 1954, TI)。

3. ホソバシケンダ 夏緑性。暖帯～温帯性。小形、葉長20～50cmで細長い。葉は著しく二形性をなし、裸葉は短く、地面にはうように出て、実葉は背が高く直立する傾向にある。羽片の先は鈍頭、稀に鋭頭。包膜の辺は普通細裂する。最下羽片は時に長くなることがある。葉面、葉脈上に毛が多く、特に春先に目立つ。葉柄や中軸に毛、鱗片のないものをヤブシダ form. oldhami (Hook. et Bak.) Kurata と呼ぶが区別するほどではない。また逆に、木曾産(大塚4397)のように、葉柄下部に密に鱗片をつけるものもある。本種は全国に広く分布し、本県にも多い。シケンダが人里や町中にあるのに比べ、本種は山地に多い。

北信：志賀高原地獄谷(伊藤静夫166, SHIN), 戸隠奥社ca. 1200m(岩槻邦男6723, KYO),

※SBL：東京教育大学菅平高原生物実験所，TI：東京大学理学部植物学教室，他は前報参照。

大町市居谷里800m(大塚3919, KAN)。東信:菅平大明神沢(芹沢8850, SBL; 大塚1216, SBL), 真田町角間沢(大塚1348, SBL), 同鳥帽子岳~角間沢1200m(大塚3101, KAN), 青木村滝山沢(大塚527, SBL), 上田市金剛寺600m(大塚1433, KAN), 佐久市荒船山1100m(大塚1576, KAN), 川上村梓山1350m(大塚3708, KAN)。中信:南安曇郡温村(小泉秀雄, TNS-288929), 上高地営林署付近(大塚1820, TOFO), 富士見町釜無溪谷ca. 1300m(大塚3664, KAN), 仙丈岳赤河原~大平小屋1400m(大塚3889, KAN)。南信:木曾郡日義村(小泉TNS-288930), 山口村賤母国有林400m(大塚4397, KAN), 飯田市天竜峡400m(大塚2331, KAN), 下伊那遠山川上流(倉田悟1387-a, TOFO)。

4. フモトシケンシダ 夏緑性。暖帯性。葉は細長く、ホソバシケンシダによく似ている。最下羽片が特に長く、中軸に下向きにつく。最下羽片は鋭頭で、他は鈍頭である。葉面は割に毛が多く、包膜上にも多少ある。葉柄は紫褐色になることが多い。包膜はほぼ全縁であるが、小突起が見られるものもある。本種はホソバシケンシダと種々の点でよく似ており、ごく近縁のものと考えられる。本州、四国、九州に稀に産する。本県では下伊那郡平岡で採集することができた。長野県新産。

南信:下伊那郡天竜村平岡400m(大塚1840, KAN, 図2)。

5. セイタカシケンシダ 夏緑性。暖帯性。葉身は幅広く、葉柄が長く、葉身と同程度。葉は二形性があり、実葉は大きく、直立する。葉は他のシケンシダ類より厚い。最も著しい特徴は、葉裏面の脈以外にも、毛が非常に多いことである。また、包膜上にもそれがある。葉表面は濃緑色で、葉柄にはまばらに鱗片をつける。新潟県を北限に、関東以西に分布する。本県では、今まで知られていなかった。長野県新産。

南信:木曾郡山口村黍生350m(大塚2996, TOFO; 同3001, KAN, 図1)。

5-1b ムクゲシケンシダ 夏緑性。暖帯性。母種に比べ、葉柄、中軸に白い鱗片や多細胞毛を密生させる。本県では、奥原先生が木曾で採集したものが、唯一の記録である。

南信:木曾郡山口村賤母沢(奥原弘人 s. n. 1968, TOFO)。

6. オオヒメワラビ 夏緑性。暖帯~温帯下部性。葉長60cm~1mくらいで、割と大形。葉身は三角状卵形で、二回羽状複生。羽軸には翼ができる。時に、オオヒメワラビモドキに似た形状を呈し、移行型と考えられるものもある。包膜は円腎形で、馬てい形のものもまじる。本種は無配生殖をおこなう。北海道を除き、全国に広く分布する。本県では稀な種類である。

北信:上水内郡芋井村(五味新平 s. n. 1939, TI)。東信:上田市塩田独鈷山800m(大塚1225, TOFO; 同1356, SBL)。中信:富士見町羽場白谷沢1000~1300m(清水建美19993, SHIN)。南信:下伊那郡天竜村倉平(奥原32, SHIN), 同平岡中井侍(村松光喜359, TNS), 木沢村(村松1007, TNS)。和田村(村松624, TNS), 遠山川神の石付近(倉田s. n. 1973, TOFO)。

〔文献産地〕北信:北小谷 — 神奈川博研報1:28。南信:木曾谷 — 奥原「木曾谷の植物」243。

7. オオメシダ 夏緑性。温帯上部~亜寒帯性。大形で1m~2mになり、葉柄は太い。下部~中部の羽片は直角に近く、また下部の羽片は粗につく。包膜は長楕円形で、かぎ形のものもまじる。中軸、

葉柄に微毛のある型とない型があり、仙丈岳産(№3827)は密に微毛をつけている。東北から関東にかけて、本種とオオヒメワラビの雑種と考えられているオオメシダモドキと呼ばれるものが稀に知られている。本県ではオオヒメワラビはあまり多くなく、ほとんど1000m以下の地域に現われるのに対し、本種の出現は1300m~2000m付近であり、混生する地域はないと思う。本種は本州中部以北、北海道に分布し、本県には亜高山帯の陰湿地に多い。

北信：志賀坊寺山1800m(大塚1609)，同岩菅山(飯田和 s. n. 1960, TOFO)，山の内町地獄谷(伊藤静夫687, TNS)，戸隠奥社参道1350m(大塚 s. n. 1971)，同氷清水~戸隠牧場 ca. 1300m(布藤昌一16455, KYO)，白馬村猿倉~白馬尻1550m(大塚4516, KAN)。東信：菅平大明神沢1550m(大塚339, SBL；同340, TOFO)，同大松山~保基谷岳1400m(芹沢10099, SBL)，同四阿山1500~2000m(清水16771, SHIN)，八ヶ岳本沢温泉付近(Y. Yabe s. n. 1902, TI)。中信：波田村鉢盛山1600~2400m(清水24137, SHIN)，安曇村明神~横尾1550m(大塚4087, KAN)，同島々谷南沢 ca. 1600m(大塚732, KAN)，乗鞍岳5合目(小川由一 s. n. 1929, TI)。南信：御岳山(奥原, TNS-115240)，御岳三浦(津山尚 s. n. 1934, TI)，西駒ヶ岳(前田睦夫, TNS-147344)，木曾駒シラビ平1700m(大塚1804, KAN)，仙丈岳大平小屋~馬の背2100m(大塚3827, KAN)，同赤河原~北沢峠(岩槻・福岡・鳴橋250, KYO)，大鹿村天子岩(守屋忠之 s. n. 1962, TOFO)，豊口山(村松1915, TNS；佐竹建三 s. n. 1965, TOFO)，三伏峠~御所平1700m(岩槻2320, KYO)。

8. ハクモウイノデ 夏緑性。暖帯上部~温帯~亜寒帯性。根茎は直立する。葉長40cm~120m。下部羽片は、漸次、著しく短くなる。葉柄、中軸に鱗片と多細胞毛(鱗片に連続的に変化する)が密生する。この多細胞毛の大きさ、量は変化が著しい。典型的なものでは、その長さが2~3mmあり、主に低地に普通の型である。少し高度が増すと、1mmあるいはそれ以下の微毛のもの、あるいは、全く無毛のものが多くなる。多細胞毛の性質からみると、この3つの型があるようであるが、中間的なものが多く、連続的な変異と考えられる。従って、種、変種の関係で、有毛型と無毛型(あるいは微毛型を含め)を分けるのは、妥当なこととは思われない。しかし、完全に無毛のものは、品種として区分可能である。本種には、2倍体と4倍体の存在が知られている。ところで、この無毛大形品をオオハクモウイノデ *L. vegetius* (Kitagawa) Ching, in *Acta Phytotax. Sinica* 9:71. 1964 にあてることが多いが、これとは異なるものである。従来、本種は、ハクモウイノデあるいはミヤマシケンダの名で、また無毛型をミヤマシケンダあるいはオオハクモウイノデの名で呼ばれてきた。そこで、有毛型をハクモウイノデ、無毛型をハクモウイノデの品種と考えミヤマシケンダと呼びたい。また、無毛型であるが、川上村産(№3673)，大鹿村産(№1911)は、下部羽片が短くならない一型である(図3)。この様なものは以前から知られていたが、非常に稀である。通常、下部羽片が短くなるもので、その様にならないものを、ホソイノデ、オシダ、オオバショリマ、ニッコウシダなどでも採集することができたが、本種では、その単なる奇型的なものとは思われない。根茎の状態を観察していないが、興味深いものである。なお、葉柄、中軸の色は、通常、黄緑色であ

るが、しばしば、赤褐色をおびる。白馬産(№4486)、仙丈岳産(№3835)、及び無毛型の戸隠産(倉田)、川上村産(田川・岩槻№60)は完全に赤褐色である。この色は、種々の程度のものである。本種は全国に広く分布し、本県にも多い。

北信：戸隠奥社付近(岩槻6708, KYO), 同地1300m(大塚357), 小谷村中土650m(大塚2920, KAN), 白馬村猿倉～白馬尻1550m(大塚4537, 同4486, KAN), 大町市居谷里800m(大塚4352, KAN), 銀鬼岳1180～1400m(清水18160, SHIN), 八坂村左右(A. Kosugi s. n. 1963, TOFO)。東信：真田町菅平(大塚1213, SBL), 同大明神沢1280m(芹沢10870, SBL), 角間沢(大塚1218, 1219, SBL), 青木村滝山沢(大塚538, SBL), 上田市独鈷山(大塚 s. n. 1973), 更埴市姥捨～八幡大池500～700m(清水24222, SHIN), 軽井沢町950m(大塚473), 北佐久蓼科山麓(大村敏明5567, KYO), 八ヶ岳稲子湯～緑地1600m(田川・岩槻150, KYO)。中信：松本市茶臼山1500～1600m(分類ゼミ140, SHIN), 島々谷南沢(大塚415, KAN), 諏訪(飛田廣 s. n. 1933, KYO), 富士見町釜無溪谷(大塚2186, KAN)。南信：木曾郡新開村800～850m(白井幸長86, SHIN), 山口村黍生350m(大塚2972, KAN), 賤母国有林400m(大塚4407), 駒が根市シラビ平1700m(大塚1810), 仙丈岳大平小屋～馬の背2100m(大塚3877, KAN; 3835, KAN), 天竜村為栗(大塚4709), 同平岡400m(大塚4621, KAN), 南信濃村和田堀谷550m(大塚4656)。微毛型を含む。

8-b ミヤマシゲシダ 母種の無毛型。低地にあるのは母種であるが、低山～亜高山帯では、すべての型が、同所的に存在する。

北信：戸隠奥社(村田源6349, KYO; 倉田 s. n. 1972, TOFO), 同地1300m(大塚361) 白馬村猿倉～白馬尻1550m(大塚4497, KAN)。東信：菅平(大塚1199, SBL), 角間沢1650m(大塚1207, SBL), 美ヶ原焼山沢(大塚1211, 1212, SBL), 川上村毛木平1450m(大塚3673), 同戦場ヶ原～十文字峠1500m(田川・岩槻60, 63, KYO), 軽井沢小瀬1120m(大塚1721, KAN), 八ヶ岳稲子湯～緑地1700m(田川・岩槻158, KYO)。中信：安曇村明神～横尾1600m(大塚4086), 同島々谷南沢(大塚370), 茅野市上槻の木(古瀬義 s. n. 1964, TOFO), 富士見町釜無溪谷(大塚2174)。南信：木曾郡木祖村枯尾(奥原 s. n. 1962, TOFO), 上伊那白岩岳(前田 s. n. 1959, TOFO), 仙丈岳戸台～赤河原1400m(大塚3750, KAN), 同大平小屋～馬の背2100m(大塚3841, KAN), 大鹿村安康～燕岩1100～1300m(清水19608, SHIN), 同燕岩(大塚1911, TOFO, 図3), 同釜沢～豊口山1200m(加藤雅啓60, KYO), 同鹿塩(佐竹健三 s. n. 1962, TOFO)。

§ 3 雑 録

1. アマクサシダ 本種は茨城県を北限に、関東以西の本州、四国、九州、琉球に分布する亜熱帯～暖帯性のシダである。従来、本県からは知られていなかった。長野県新産。

南信：下伊那郡天竜村神原400m(大塚2425, TOFO, 図4)。

2. フジオシダ 本種はオンダとオクマワラビの雑種と推定されるものである。現在までに知られる

産地は、木曾大桑村長通沢、山口村黍生、上伊那郡片桐村、伊那市信大農学部構内などがある。また、千村速男氏は、小県郡真田町傍陽で採集しているという。

南信：上伊那郡片桐村(前田 *s. n.* 1960, TOFO), 木曾郡山口村黍生 350m(大塚 2995, TOFO)。

3. オオクジャクシダ 本種は暖帯性シダであり、本県には、木曾では割合多く、また、北信では大町市から知られていた。今回、下伊那でも採集された。

南信：下伊那郡天竜村平岡 350m(大塚 2529, TOFO), 木曾郡大桑村小川(奥原 *s. n.* 1954, TOFO), 同木賊川(奥原 *s. n.* 1962, KAN), 山口村深沢(奥原 *s. n.* 1954, TOFO), 南木曾町妻籠〜馬籠峠(大塚 1478, TOFO)。

4. チチブイノデ 本種は、先の報告(大塚, 1975)で扱ったが、産地の追加をおこなう。安曇村産 4100 は典型的なもの、すなわち、ホソイノデ×イワシロイノデであるが、鉢盛山産は、葉形から、ホソイノデ×サカゲイノデ、すなわち、オクキヌイノデとも考えられるものである。

中信：南安曇郡安曇村明神〜徳沢 1500m(大塚 4100, TOFO), 同島々谷南沢(大塚 *s. n.* 1972), 東筑摩郡朝日村鉢盛山本沢 1500〜1600m(大塚 2277, TOFO)。

5. サイゴクイノデ 先の報告で、ハコネイノデの木曾産を報告したが、木曾からは、片親であるサイゴクイノデは知られていなかった。今回、山口村黍生のスギ林下で2株見出すことができた。

南信：木曾郡山口村黍生 350m(大塚 2977, TOFO)。

6. 前報の訂正 標本の所在が誤っているものがあり、次の様に訂正する。

オニイノデ 2573, TNS を TOFO に訂正。以下同様。チャボイノデ 2451, アイアスカイノデ 1519, 2355, トヨグチイノデ 2203, イノデ 2029, ツヤナシイノデ 1181, イノデモドキ 1522, 2030, サイゴクイノデ 2456。

参 考 文 献

- Ching, R.C. (1964) On some confused genera of the family Athyriaceae Acta Phytotax. Sinica 9:41-84
- 日置正臣 (1974) 鹿児島県の Lunathyrium シケシダ類, 鹿児島島の植物 3:49-57
- 加藤雅啓 (1973) メシダ科の有節毛, 植物分類地理 25:119-126
- Kitagawa, M. (1935) Polypodiaceae in Manshuria Australe & Jehol, Rep. 1st. Sci. Exp. Manch. IV-2:42-95
- 北川政夫 (1969) 東亜植物断想録 (25), 植物研究雑誌 44:181-184.
- Koidzumi, G. (1932) Contributions ad Cognitionem Florae Asiae Orientalis, Acta Phytotax. Geobot. 1:11-33
- Nakai, N. (1949) Miscellaneous notes on Japanese plants, Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo 27:1-49.

Nakaike, T., (1975) *Enumeratio Pteridophytarum Japonicarum* 375pp. Univ. Tokyo Press.

中村武久(1962) 南アルプスの羊歯植物 33pp.

大場秀章(1965) 日本産ミヤマシケンダ属の考察(その1), 横須賀博研報11:48-55

——(1966) 同(その2), 横須賀博研報12:26-30.

大塚孝一(1975) 信州の羊歯植物研究I, 長野県植物研究会誌8:18-28.

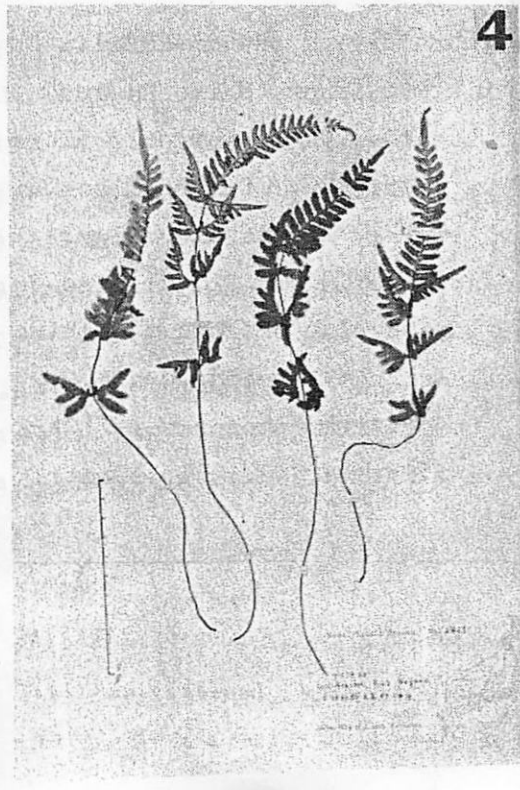
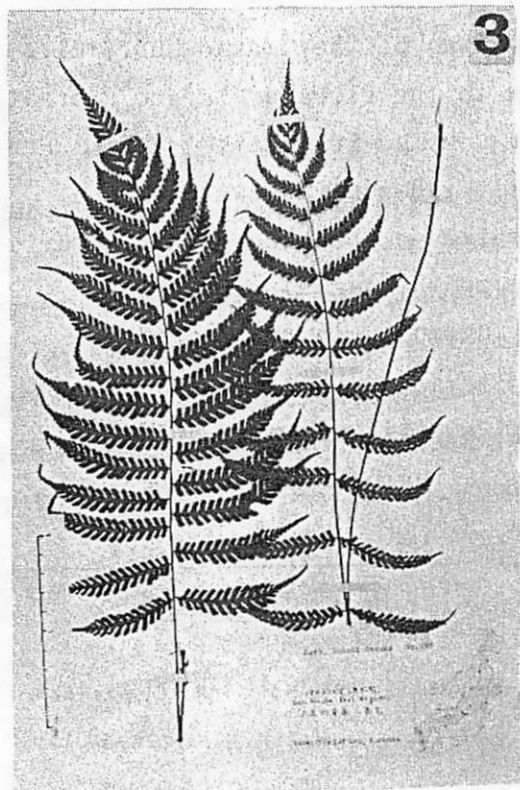
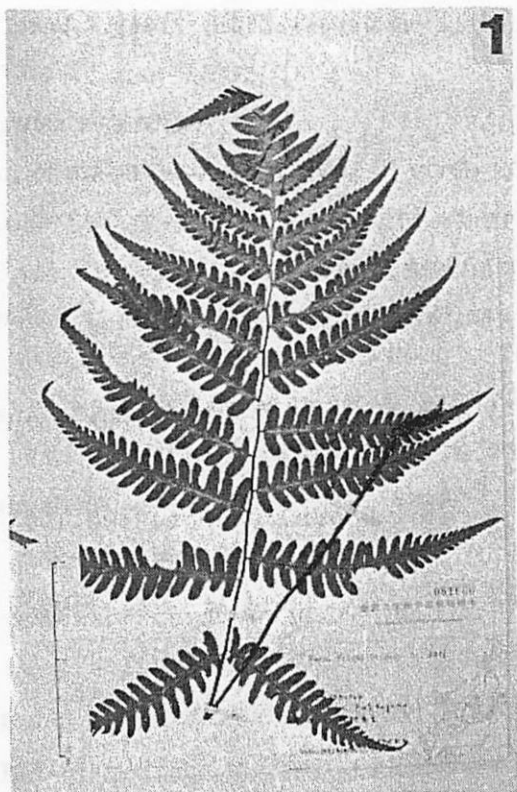
芹沢俊介(1973) 日本, 琉球, 台湾産のシケンダ類, 東京高尾自然博研報5:1-28.

§2 The ferns belonging to *Lunathyrium* known from Nagano Prefecture are as follows ;

1. *Lunathyrium japonicum* (Thunb.) Kurata, Journ. Geobot.9:99.1961.
Distr.(in Nagano Pref.) Common to whole region.
2. *Lunathyrium angustatum* (Nakai) H. Ohba, Tansawa Ohyama Gakujutsu Chosa Hokokusho 180.1964.; Sci.Rep.Yokosuka City Mus. 11:53. 1965.
Distr. Northern and eastern Shinshu, rare.
3. *Lunathyrium conilii* (Fr. et Sav.) Kurata, Nameg. et Kurata, Enum. Jap. Pterid. 341:1961. Distr. Common to whole region.
4. *Lunathyrium pseudo-conilii* Serizawa, Sci.Rep.Takao Mus.7:21.1973.
Distr. Hiraoka(Shimoina-gun) New to the flora of Nagano Prefect.
5. *Lunathyrium lasiopteris* (Kunze) Nakaike in Nakaike, Enum. Pterid. Jap.176.1975. Distr. Kiso-Taisei(Kiso-gun). New to Nagano.
5-b. var. *kiusianum* (Koidz.) Nakaike in Nakaike, Enum. Pterid. Jap. 176.1975. Distr. Kiso-Shizumo (Kiso-gun).
6. *Lunathyrium okuboanum* (Makino) Sugimoto, Journ. Geobot.11:85.1962.
Distr. Whole region, rare.
7. *Lunathyrium pterorachis* (Christ) Kurata in Nameg. et Kurata, Enum. Jap. Pterid.342.1961. Distr. Whole region in subalpine-zone.

図 版 説 明

1. セイタカシケンダ *Lunathyrium lasiopteris*
2. フモトシケンダ *L. pseudo-conilii*
3. ミヤマシケンダ一型 A form of *L. pycnosorum* form. *glabrum*
4. アマクサンダ *Pteris dispar*



8. *Lunathyrium pycnosorum* (Christ) Koidz., Acta Phytotax. Geobot.
1:31.1932. Distr. Whole region
8-b. form. glabrum

Distr. Whole region

§3 Notes

1. *Pteris dispar* Kunze (Pteridaceae) Distr. Tenryu-Hiraoka.
This fern is a new addition to the flora of Nagano Prefecture.
2. *Dryopteris × watanabei* Kurata (Dryopteridaceae)
Distr. Southern Shinshu (Kiso and Ina).
3. *Dryopteris dickinsii* (Fr. et Sav.) C. Chr. (Dryopteridaceae)
Distr. Kiso, Oomachi and new to Shimoina.
4. *Polystichum × titibuense* Kurata (Dryopteridaceae)
Distr. Mts. Akaishi, Mts. Kiso and Mts. Hida.
5. *Polystichum pseudo-makinoi* Tagawa (Dryopteridaceae)
Distr. Shimoina and new to Kiso.

〔新刊紹介〕 長野県植生図製作調査団 「長野県の植生図 — 植物社会学的研究 — 第2集」・
「同第3集」 B5判, 第2集(1974年): 75頁12図幅, 第3集(1975年): 91頁12図
幅。長野県発行。

本書はすでに第1集が発刊されており, 残すは第4集のみとなった。長野県の植生を5万分の1の地図に植生図化しており, 第2集は高田東部・松之山温泉・小滝・妙高山・飯山・苗場山・白馬岳・戸隠・立山・大町・信濃池田・松本の12地区, 第3集は御岳山・木曽福島・伊那・加子母・上松・赤穂・妻籠・飯田・中津川・時又・根羽・満島の12地区となっている。またこの植生図を説明するものとして別冊で, 各地区毎の地域概況, 植生概観, 認められた群落単位, 保護を要する植生と管理に対する提言が述べられている。本書の全般については, すでに当会誌第8号にて紹介されているので省略する。長野県の植生図は20万分の1が1971年に出来上っており, 第4集も近々発刊される予定なので, ほぼ完成されたことになる。今後はこれらの立派な植生図を, 学術, 自然保護, 開発などに如何に利用していくかが我々に課せられた問題であろう。本書の入手は, 長野市南長野幅下, 長野県庁内生活環境部自然保護課へ問合せられたい。

(K. T. 生)